

コリント人への手紙第一 15:12-34 復活がなければ

パウロは第一コリント 15 章の冒頭で、キリストの死と復活にフォーカスしました。この章は復活に焦点を当てているため、パウロはキリストの復活を証明することに多くの時間を費やしました。そして、信者の復活を弁護するために、キリストの復活がその教義、あるいは教えの基盤であることを示すことから始めなければなりませんでした。15 章では 12~34 節を見ていきますが、そこでパウロはキリストの復活と信者の復活を結び付け始めます。11 節の大部分をイエス・キリストの復活を弁護することに費やした後、12 節がどのように始まっているかを見てみましょう。「12 ところで、キリストは死者の中からよみがえられたと宣べ伝えられているのに、どうして、あなたがたの中に、死者の復活はないと言う人たちがいるのですか。13 もし死者の復活がないとしたら、キリストもよみがえらなかつたでしょう。」この使者の復活がないという間違っただけの教えに対抗するために、パウロは復活のことから話し始めます。もし信徒の復活がないとすれば、イエスも死から復活されなかつたということです。そして、もしイエスが死から復活されなかつたとしたら、イエスに従う者である私たちには深刻な問題となります。そこでパウロは、次の 5 節で死なれたキリストがもたらすものに注目しています。

14-19 節を読みましょう。「14 そして、キリストがよみがえらなかつたとしたら、私たちの宣教は空しく、あなたがたの信仰も空しいものとなります。」死なれたままの救い主がもたらす問題の一つ目は、私たちの宣教が無価値で、福音を宣べ伝えるために時間を費やしている人たちは皆、人生を無駄に過ごしていることになるということです。それはまた、パウロや福音を宣べ伝えている人たちのメッセージに応答する人たちにとって、彼らの信仰は偽りで役に立たないということにもなります。このことがメインポイントであることを強調すべく、この箇所ではパウロは 2 回繰り返しています。イエス・キリストの復活がなければ、私たちの信仰は無価値で空しいものになります。クリスチャンを自称し、神学校で教えていたり、教会の牧師だったり、大きな影響力を持つ人の中には、復活は起こらなかつた、少なくとも聖書の教え通りではなかつたと教える人たちがいます。BBC が 2017 年に行った調査では、信仰生活を守っているとするクリスチャンを自称する人のうち、聖書に書かれている復活の記述を信じている人は 6 割にも満たないという結果が出ています。残りの 40 数パーセントの人たちが何を信じているのか分かりませんが、それはキリスト教ではありません。復活がないとするならば、彼らにはイエス・キリストに在る真の救いに至る信仰はありません。

更に、私たちの説教やそれによる信仰に価値がないだけでなく、神ご自身について嘘をついていることになるパウロは言っています。続けて 15 節と 16 節を読みます。「15 私たちは神についての偽証人ということにさえなります。なぜなら、かりに死者がよみがえらなかつたとしたら、神はキリストをよみがえらせなかつたはずなのに、私たちは神がキリストをよみがえらせたと言って、神に逆らう証言をしたことになるからです。16 もし死者がよみがえらなかつたとしたら、キリストもよみがえらなかつたでしょう。」神のご性質やどのような方であるかについて人々を惑わすことは、神から造られた存在である私たちができる最悪の行為でしょう。ですがパウロは、復活を否定することはキリストの復活すら否定することであり、神ご自身について嘘をつくことだと言います。コリントの人々が知っていたこと、そして神のご性質について私たちが知っていることから判断するならば、これは神の裁きを受ける危険にさらされることとなります。私たちが十戒として知っている律法の 3 番目で、神は神の名を悪用すると裁きを受けると警告しておられます。出エジプト記 20:7 は「7 あなたは、あなたの神、主の名をみだりに口にすることはならない。主は、主の名をみだりに口にすることを罰せずにはおかない。」と言っています。神はご自分の本質について偽りを語る人間に対して、その人と同様の行動で応えないのでしょうか。ですが、それが最悪の事態なわけではありません。私たちは神について偽りの証言をただだけでなく、私たちの罪も赦されないこととなります。17 節を見て下さい。「17 そして、もしキリストがよみがえらなかつたとしたら、あなたがたの信仰は空しく、あなたがたは今もなお自分の罪の中にいます。」イエスが解決するために来られた第一の問題、どうしようもなく大きな問題は、私たちの罪の問題でした。最初の人であったアダムとエバが罪を犯したので、私たちは皆、生まれながら

に罪人であり、道徳的な判断をできなくなったのです。私たちは、聖書が肉と呼ぶものの内に生きています。ローマ 8:7 は「7 なぜなら、肉の思いは神に敵対するからです。それは神の律法に従いません。いや、従うことができないのです。」と語っています。罪を犯さずにはおれず、その罪は肉体的な死だけでなく、霊的な死と言う罰をもたらします。ですから、イエスが与えてくださる新しい命、復活を必要とするのです。けれど、もし復活がないとすれば、新しい命はなく、私たちの救いも罪の赦しもないのです。死と言う現実に向き合う時、絶望的な状況に陥ってしまいます。ですから 18 節は「18 そうだとしたら、キリストにあって眠った者たちは、滅んでしまったこととなります。」と語っているのです。もし罪からの救いが無いのであれば、ローマ 6:23 の最初の部分に「罪の報酬は死です。」とあるのは正しいこととなりますが、この節の後半部分にある素晴らしい、希望に満ちた部分は不可能だということとなります。そこには「しかし神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」とあります。もし、この永遠の命と罪からの救いの希望がないとしたら、私たちが救い主と呼ぶイエス・キリストのためにこの世で働き、賛美することは全て無駄で、私たちは人生を無駄にして妄想のために尽くしていることとなります。それがパウロが 19 節で指摘している点です。「19 もし私たちが、この地上のいのちにおいてのみ、キリストに望みを抱いているのなら、私たちはすべての人の中で一番哀れな者です。」もしキリストへの信仰がこの世を生き抜くための哲学や宗教的な生き方に過ぎず、死後に何ももたらさないのであれば、人々は私たちが持っているものを欲しがらずにはありません。死んでしまってこの世において何の役にも立たない人物に献身して生きるなど、哀れな事だという目で見られるでしょう。私たちが非難するありとあらゆる偽りの宗教と何ら変わらないこととなります。

神に至る道を示すと主張するこの世の様々な宗教とキリスト教が異なる点は、死者の中から蘇った救い主がおられるということです。パウロは、もし復活がなければどうなるかということを示した後、20 節でこのように続けます。「20 しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。」この真実が全てを変えるのです。パウロは復活したキリストが与えることを示すために、さらに話を勧めます。それは私たちのためでもあり、キリストご自身のためでもあります。20-22 節は私たちのためにこう語っています。「20 しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。21 死が一人の人を通して来たのですから、死者の復活も一人の人を通して来るのです。22 アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストにあってすべての人が生かされるのです。」キリストが死者の中から蘇られたので、私たちはイエス・キリストへの信仰ゆえに新しい命、復活の命を得ることができるようになります。もちろん、15 章の残りの部分でキリストが再臨される際に私たちが肉体的に復活することについて述べています。ですが、霊的な刷新と真の永遠の命は、私たちが救われた直後に受け継ぐものです。これについてはエペソ:1-5 にあります。そこには「1 さて、あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、2 かつては、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。」とあり、続けて 4 節からには「4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちが愛してくださったその大きな愛のゆえに、5 背きの中に死んでいた私たちを、キリストとともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです。」とあります。キリストの死と復活があるからこそ、罪のために死んでいた私たちは真にキリストと共に生きるものとされるのです。キリストが死後も生きておられるように、私たちも復活を体験し、今もそして死んだ後も新しい命を得ることができ、最終的には永遠において新しい体へと新たにされるのです。

ですが、もちろんすべての始まりはキリストの復活であり、まずキリストご自身がそれを体験され、私たちの復活の基盤を造られました。キリストのための復活について、23-28 節に書かれています。「23 しかし、それぞれに順序があります。まず初穂であるキリスト、次にその来臨のときにキリストに属している人たちです。24 それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、王国を父である神に渡されます。25 すべての

敵をその足の下に置くまで、キリストは王として治めることになっているからです。26 最後の敵として滅ぼされるのは、死です。27 「神は万物をその方の足の下に従わせた」のです。しかし、万物が従わせられたと言うとき、そこには万物をキリストに従わせた方が含まれていないことは明らかです。28 そして、万物が御子に従うとき、御子自身も、万物をご自分に従わせてくださった方に従われます。これは、神が、すべてにおいてすべてとなられるためです。私たちの救いが可能となるためには、必要な順序がありました。まずキリストが死から蘇り、その後で私たちは救いを得ることができたのです。旧約聖書の聖徒でさえ、今の私たちのようにこの世で救いの恩恵を受けることができませんでした。それは、まだ世に現れておられなかった救い主を信仰していたからです。もちろんイエス・キリストは常に神でおられたので、旧約聖書の時代にもおられました。実際ヨハネの福音書 1:1-3 には「1 初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。2 この方は、初めに神とともにおられた。3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。」とあります。ですから、神としてのイエス・キリストは永遠におられ、天地創造においては三位一体の神としておられたことは明らかです。ですが、イエスが人として死なれ、死から蘇られたことによって、罪と死の呪いからの永久的な自由がもたらされたのです。そして、その事実だけでは、イエスの死と復活を通して与えられる私たちの未来への希望を見出すには十分でなく、イエスがただ復活され依然と同じ人間的な存在になったわけではないとパウロは指摘しています。イエスは私たちの王として、正当で真の権威ある地位に昇られたのです。イエス・キリストの権威の下にないものは、三位一体の第一の位格でおられる父なる神のみです。27 節では、その父なる神がイエスを万物の王として据えられたと示されています。イエスの復活ゆえに、死そのものがイエスの主権の下に置かれました。イエスが死を打ち破られたので、死はもはや何の力も持たないのです。これが、26 節にある「最後の敵として滅ぼされるのは、死です」という力強い真実です。世界中のほぼすべての人にとって、死とは人生の大半において恐れるべき存在です。死の訪れを阻止しようとする限りの事をします。出来る限り生きようとし、もちろん自分の命や他人の命を時満ちずに終わらせようとすべきではありません。それは、人の命は大切なものだからです。ですから神は創世記 9:6 で「6 人の血を流す者は、人によって血を流される。神は人を神のかたちとして造ったからである。」と言っておられるのです。ですが、キリスト者はキリストを知らない人には理解できない希望だけでなく平安さえ抱いて、必然的に訪れる死に立ち向かうことができます。

パウロは私たちの復活の希望と、復活後にキリストがどこにおられるかで終わりませんでした。キリストの復活について私たちが信じている事ゆえに私たちの行動が変わるべきだと、彼の思いを続けています。もし私たちが、キリストが死者の中から復活されたと宣言しそれを信じるならば、その真実ゆえに私たちの生き方が変わるはずで、29-34 節を見て下さい。「29 そうでなかったら、死者のためにバプテスマを受ける人たちは、何をしようとしているのですか。死者が決してよみがえらないのなら、その人たちは、なぜ死者のためにバプテスマを受けるのですか。30 なぜ私たちも、絶えず危険にさらされているのでしょうか。31 兄弟たち。私たちの主キリスト・イエスにあって私が抱いている、あなたがたについての誇りにかけて言いますが、私は日々死んでいるのです。32 もし私が人間の考えからエペソで獣と戦ったのなら、何の得があったでしょう。もし死者がよみがえらないのなら、「食べたり飲んだりしようではないか。どうせ、明日は死ぬのだから」ということになります。33 惑わされてはいけません。「悪い交際は良い習慣を損なう」のです。34 目を覚まして正しい生活を送り、罪を犯さないようにしなさい。神について無知な人たちがいます。私はあなたがたを恥じ入らせるために言っているのです。」29 節はむずかしいですね。死者のためにバプテスマを受けるといのが何であれ、復活の希望の結果として、あるいはキリストの復活のためになされるのだということは明らかです。この箇所が何を言っているのかについては色々な見解がありますが、実際の所私たちには分かりません。私は、コリントの信者の中にバプテスマについて誤った認識をした人がいて、死者のためにバプテスマを受けていたのだろうと、そのまま理解しています。このことは他の箇所には書かれていないので、恐らく広く信じられていた誤りではなく、パウロはそうした不明瞭な慣習が信

仰から大きく離れることにつながったり福音に影響を与えるものにとらえていなかったのでしょうか。この箇所を用いて偽りの福音を伝えるモルモン教会のようなやり方が行われていなかったのは明らかです。モルモン教会では、死んだ親族のためにバプテスマを受け、それがその人たちに救いをもたらすと信じています。パウロがそれ以上触れていないことから、このことがイエス・キリストを信仰することから得られる救いの本質について誤った福音が語られていた訳ではなかったことは明らかです。つまり、キリストの復活と、それによる私たちの将来の復活が確実であるということに基づいて行われた一つの行動に過ぎなかったと言えます。ですがその後、パウロは他の人たちについて話を続けます。パウロは、イエス・キリストの福音を宣べ伝えるために自分の命を危険にさらし、迫害にも立ち向かうのは、復活の確信があったからだとしています。復活の確信と、それによってもたらされる新しい命がないのであれば、「どうせ、明日は死ぬのだから食べたり飲んだりしようではないか。」というのです。カルペ・ディエム…その日をつかめ…人生は一度きり！つまり、この命の先には何もないのだから、好きな事をやりなさいというのです。日本語では同じような表現で「今を生きる」、あるいはより宗教的にいうと、仏教でいう現世（げんせ、げんせい、古くは「げんぜ」とも読む）、あるいは神道でいう現世（うつしよ）に生きるということでしょうか。これらは今だけが重要だという考え方です。クリスチャンにとっては、今も重要ですが、それは永遠との関係において重要なのです。キリストの復活ゆえに可能な将来の復活があるから、私たちの行いが変わり、生活が変わるのです。それらの変化には、私たちの人間関係の変化、時にはクリスチャンと称しながらも神について間違った教義を教えている人たちとの関係の変化も含まれます。パウロは33節で「悪い交際は良い習慣を損なう」と言っています。これは、復活はないと言っている人たちの事を言っているのです。そうした教えは罪深いものとして拒絶しなさい。間違った教えや教理に触れてはいけません。パウロはそれを罪深い教えを無視して酔っぱらっている状態に例えています。私たちが自分の生活の中で罪深い行動を見て見ぬふりをすることが多いのと同じように、教会の中においても罪深い教えを容認することができます。そのどちらにも対してパウロは「罪を犯さないようにしなさい」と言います。キリスト教とは自分が信じていることを告白するだけのものではなく、その信念に基づいて行動すること、信仰に生きることです。それこそが福音を中心とした人生を送るということでもあります。神の聖さを認め、神がどのようなお方かという真実に照らして明らかとなった罪を悔い改めます。そして、その罪深い生き方を変えるために聖霊の助けを求めるのです。罪をただ見なかったことにするのはではないのです。

もしあなたが復活を否定するとすれば、それはキリストご自身を否定することです。私たちは往々にして、この世のものが最も重要であるかのような生き方をして、事実上復活を否定して生きています。聖い神の前に罪がどれほどまでに恐ろしく醜いかを理解できずに、罪を許容して生きています。自分が信じていると宣言していることを反映した生活をせず、キリストがまるで復活されなかったかのように生きています。もし今のあなたがそのような姿であるとしたら、この聖餐式はあなたのためにあります。それは悔い改めの時です。キリストの復活を否定し、死に至ったキリストの苦しみを軽んじる行為に対して、神が与えてくださる赦しを受けるための時です。私たちには罪の代価を払うためにキリストの死が必要です。ですが、罪を悔い改め、信仰によって歩む、新しい復活の人生を生きるようにと求められているので、キリストの復活が必要なのです。もしあなたが本当に罪を悔い改め、イエス・キリストを主であり救い主として信頼し、バプテスマを受けておられるならば、晩餐式に是非ご参加ください。まだイエス・キリストを受け入れておられず、バプテスマを受けておられない方は、参加をご遠慮いただければと思います。子ども達に親が聖餐式の重要性を教える最善の方法は、まだ準備が出来ていない子どもを参加させないことです。私が祈った後、執事が教会堂の四隅でパンとジュースをお配りします。その後、共に主の晩餐に与りましょう。祈りましょう。

1 Corinthians 15:12-34 What if there is no resurrection?

As First Corinthians 15 opened, Paul focused on the death and resurrection of Christ. He spent a lot of time focused on the proof for Christ's resurrection, because resurrection is the focus of this chapter. And in order to defend the resurrection of believers, he must start with showing that the resurrection of Christ is the foundation of that doctrine, or teaching. As we continue in chapter 15 we will be looking at verses 12-34, where Paul begins to tie the resurrection of Christ to the resurrection of believers. Look how he begins in verse 12, after spending much of the first 11 verses defending the resurrection of Jesus Christ. **12 Now if Christ is proclaimed as raised from the dead, how can some of you say that there is no resurrection of the dead? 13 But if there is no resurrection of the dead, then not even Christ has been raised.** So, he begins at the resurrection in order to argue against this false teaching of no future resurrection. **If resurrection for believers does not exist, then Jesus did not rise from the dead either.** And if Jesus did not rise from the dead, there are serious consequences for those of us who claim to be his followers. So Paul spends the next 5 verses focused on the **what the results of a dead Christ would be.**

Let's read verses 14 – 19. **14 And if Christ has not been raised, then our preaching is in vain and your faith is in vain.** The first result of a dead Savior is that our preaching is worthless, and everyone spending their lives preaching the gospel is wasting their life. This also means that for those who respond to the message that Paul and everyone who preaches the gospel is delivering, their faith is false and useless. He will say this twice in this passage to emphasize that this is his main point. Without the resurrection of Jesus Christ we have a worthless and empty faith. There are people who call themselves Christians, who even teach in seminaries, pastor churches and are highly influential who teach that the resurrection did not happen, at least not as the Bible teaches. **The BBC did a survey back in 2017 that found that less than 60% of those who described themselves as Christians who were active in their faith believed the account of the resurrection as the Bible describes it.** I'm not sure what all the other 40 plus percent believe, but it is not Christianity. They do not have true saving faith in Jesus Christ, if there is no resurrection.

What's worse is that Paul says, not only is our preaching and subsequent faith worthless, we are lying about God himself. Continue reading verses 15 and 16. **15 We are even found to be misrepresenting God, because we testified about God that he raised Christ, whom he did not raise if it is true that the dead are not raised. 16 For if the dead are not raised, not even Christ has been raised.** To mislead people about the person and nature of God would be the worst thing we as a being created by him could do. And yet, Paul says to deny resurrection, denies even the resurrection of Christ and tells people lies about God himself. This would put us in danger of God's judgement given what the Corinthians knew and what we know about the nature of God. God tells us in the third of what we know as the 10 Commandments that misusing his name brings judgement. **Exodus 20:7 says, 7 "You shall not take the name of the Lord your God in vain, for the Lord will not hold him guiltless who takes his name in vain.** Would God not act with similar actions against someone who lies about his very nature? But that's not even the worst of it. Not only have we falsely testified about God, our sins are not forgiven. Look at verse 17. **17 And if Christ has not been raised, your faith is futile and you are still in your sins.** The primary problem, the overwhelming problem, that Jesus came to fix, was the problem of our sin. Since the first humans, Adam and Eve, sinned, all of us are born

already a sinner both by nature and once capable of moral decisions, by our own choice. We are living in what the Bible calls our flesh, and [Romans 8:7](#) says, **7 For the mind that is set on the flesh is hostile to God, for it does not submit to God's law; indeed, it cannot.** We are incapable of not sinning, and that sin brings the penalty of not only our physical death, but our spiritual death. This is the reason we need the new life, the resurrection that Jesus provides for us. But if there is no resurrection, then there is no new life, and there is no salvation and forgiveness of our sin. That leaves us in a hopeless situation as we look at the certainty of death. So verse 18 says, **¹⁸ Then those also who have fallen asleep in Christ have perished.** If there is no salvation from our sins then the first part of [Romans 6:23](#) is still true, **23 For the wages of sin is death,** but the second wonderful, hope filled second part of that verse is impossible. It says, **but the free gift of God is eternal life in Christ Jesus our Lord.** If there is no hope of this eternal life and rescue from our sins, then all of our actions and worship here on earth of this one we call our Savior, Jesus Christ, is useless and we are wasting our whole life serving a delusion. Which is what Paul points out in verse 19. **¹⁹ If in Christ we have hope^[a] in this life only, we are of all people most to be pitied.** If the Christian faith is just a philosophy or a religious way of life that helps us through this world, but offers nothing past death, then people should not want what we have. They should look at us like we are pathetic in the way we live our lives in devotion to a man who is dead and offers nothing past this life. Basically, we are in the same position as every false religion that we condemn.

The one thing that sets Christianity apart from other world religions that claim to offer a way to God, is a Savior who was raised from the dead. And so after showing all the results of what would happen if the resurrection had not happened, Paul continues in verse 20... **²⁰ But in fact Christ has been raised from the dead...** That fact changes everything! So Paul goes on to show us the **results of a risen Christ.** And those results are for us, and for Christ himself. Verses 20-22 show us the results for us. **²⁰ But in fact Christ has been raised from the dead, the firstfruits of those who have fallen asleep. ²¹ For as by a man came death, by a man has come also the resurrection of the dead. ²² For as in Adam all die, so also in Christ shall all be made alive.** Because Christ has risen from the dead, we can enjoy new life, resurrected life through faith in Jesus Christ. Of course, he will spend the rest of chapter 15 building this case for our physical resurrection at Christ's return. But there is spiritual renewal and real eternal life that we inherit immediately upon salvation. [Ephesians 2:1-5](#) is the key passage regarding this. It tells us, **1 And you were dead in the trespasses and sins 2 in which you once walked, following the course of this world, following the prince of the power of the air...** continuing on in verse 4 we read, **4 But God, being rich in mercy, because of the great love with which he loved us, 5 even when we were dead in our trespasses, made us alive together with Christ—by grace you have been saved—** Because of Christ's death AND resurrection, we, who are dead in our sin can truly be made alive with Christ. Just as he lives after death, we can experience resurrection ourselves into new life now and after death and ultimately in a renewed body in eternity.

But of course the beginning of all this is Christ's resurrection, which first had results for him, and laid the foundation for our resurrection. We see the results for Christ in verses 23-28. **²³ But each in his own order: Christ the firstfruits, then at his coming those who belong to Christ. ²⁴ Then comes the end, when he delivers the kingdom to God the Father after destroying every rule and every authority and power. ²⁵ For he must reign until he has put all his enemies under his feet. ²⁶ The last enemy to be destroyed is**

death. ²⁷ For “God^[b] has put all things in subjection under his feet.” But when it says, “all things are put in subjection,” it is plain that he is excepted who put all things in subjection under him. ²⁸ When all things are subjected to him, then the Son himself will also be subjected to him who put all things in subjection under him, that God may be all in all. There is a necessary order that had to happen for our salvation. Christ had to rise from the dead first, then we could obtain salvation. Even Saints in the Old Testament could not experience the benefits of salvation in this life in the same way we can, because they were putting their faith in a Savior who had not yet been revealed. Now, of course, Jesus Christ is and always was God, so he was already present in the Old Testament. In fact [John 1:1-3](#) tells us, **1 In the beginning was the Word, and the Word was with God, and the Word was God. 2 He was in the beginning with God. 3 All things were made through him, and without him was not any thing made that was made.** So, it is clear that Jesus Christ as God is eternal and always existing and in fact is identified with the Trinity in Creation. But it was not until he died a human death, and then was raised from the dead, that he provided permanent freedom from the curse of sin and death. And if that fact alone is not enough to make us find hope in our future through his death and resurrection, Paul points out that Jesus did not just rise again to the same human existence as before. He ascended to his rightful and true position of authority as our king. The only thing in existence that is not under the authority of Jesus Christ is God the Father himself who is the First person of the Trinity. It is pointed out that He is the one who installed Jesus as king over all the universe in verse 27. Because of Jesus’ resurrection, death itself is subjected underneath his sovereign rule. He defeated it and it no longer has any power. This is a powerful thought in verse 26, that **The last enemy to be destroyed is death!** For most people in the world, death is this fear that we live with for most of our lives. We do everything we can to stop it from happening. We fight it for as long as possible, and of course we should not seek to end our life or anyone’s life prematurely because human life is important. This is why God can say in [Genesis 9:6](#) **“Whoever sheds the blood of man, by man shall his blood be shed, for God made man in his own image.** But for the Christian, we can face the inevitability of our death with a hope and even peace that is unknown to one without Christ.

But Paul doesn’t stop with just the hope of resurrection for us, and the place of Christ now after his resurrection. He continues his thought by saying that **our actions should change in light of what we believe about Christ’s resurrection.** If we say and truly believe that Christ has risen from the dead then there should be changes in how we live in light of that truth. Look at verses 29-34. ²⁹ **Otherwise, what do people mean by being baptized on behalf of the dead? If the dead are not raised at all, why are people baptized on their behalf?** ³⁰ **Why are we in danger every hour?** ³¹ **I protest, brothers, by my pride in you, which I have in Christ Jesus our Lord, I die every day!** ³² **What do I gain if, humanly speaking, I fought with beasts at Ephesus? If the dead are not raised, “Let us eat and drink, for tomorrow we die.”** ³³ **Do not be deceived: “Bad company ruins good morals.”**^[c] ³⁴ **Wake up from your drunken stupor, as is right, and do not go on sinning. For some have no knowledge of God. I say this to your shame.** Verse 29 is difficult. It is clear that whatever baptizing on behalf of the dead is, it is something that happens as a result of the hope of resurrection or at least because of Christ’s resurrection. There are many different views on what this is talking about, but the truth is we really don’t know. I tend to take it at face value that some of the Corinthian believers with perhaps a misguided view of baptism were being baptized for the dead. Since it was not addressed anywhere else, perhaps it was not a widespread error, and

Paul did not consider their obscure practice to be a major deviation from the faith or affect the gospel. It was clearly not being practiced in the way the Mormon church which preaches a false gospel uses this passage. They are baptized for dead relatives believing that this brings them salvation. Clearly, whatever was happening was not involving a false gospel regarding the nature of salvation through faith in Jesus Christ, since Paul was not concerned to address it. So, that was one action taking place based on Christ's resurrection and the certainty of our future resurrection because of that. But then he talks about others. And what he shows us is that his willingness to put his very life on the line and face the inevitable persecution that came with the proclamation of the gospel of Jesus Christ was because of the certainty of resurrection. Without the certainty of that resurrection and new life offered because of it, he says, then let's just "eat and drink for tomorrow we die." Carpe Diem...Seize the day...you only live once! In other words there is nothing more past this life, so do with it whatever you want. A similar expression in Japanese might be (IMAWOIKIRU)今を生きる or in more religious understandings 現世 (GENSE or GENSEI) - from Buddhism, also pronounced UTSUSHIYO in Shinto. But it is this idea that only now matters. For the Christian, now matters, but it matters in its relation to eternity. So our life changes, and our actions change in relation to that future resurrection possible because of Christ's resurrection. That includes that our human relationships change, sometimes even with those who claim to be Christians, but are teaching wrong doctrine about God. Paul says in verse 33, "Bad company ruins good morals." This is talking about those who are saying there is no resurrection. Reject that teaching as sinful! Don't mess around with false teaching and doctrine. Paul compares it to being in a drunken stupor, ignoring the sinful teaching. In the same way that we many times ignore sinful behavior in our lives, we can tolerate sinful teaching in the church, and Paul says to both, "Do not go on sinning!" Christianity is not just saying what you believe; it is acting on that belief...living out your faith. This is what living a Gospel centered life is all about. We recognize God's holiness and repent of the sin that becomes evident in light of the truth of who God is. Then we ask for the Holy Spirit's help to change those sinful ways. We don't just ignore it.

If you deny the resurrection, you deny Christ himself. Many times we live in practical denial of the resurrection, because we live as if the things of this world are the most important things in this life. We live tolerating sin, because we fail to see how horrible and ugly it is before a holy God. Our life never reflects what we say we believe, and in our actions we simply live as if Christ was never resurrected. If that is you today, then this time of communion is for you. It is a time to repent. To receive the forgiveness that God offers you for those actions that in effect deny his resurrection and make light of his suffering that led to his death. We need Christ's death, because our sins need to be paid for; but we need Christ's resurrection, because we are called to live a new and resurrected life of repentance of sin and walking by faith. If you have truly repented of your sin and are trusting Jesus Christ as Lord and Savior and then been obedient in baptism, I invite you to join us for this communion meal. If you have not accepted Jesus Christ or been obedient in baptism, then I would ask you to not partake. For children, the best way parents can teach them the importance of Communion is to not allow them to participate if they are not ready. After I pray the Deacons will serve the prepackaged elements from the 4 corners of the sanctuary and then we will eat together and drink together. Let's pray.